

「(オーストラリア海外研修プログラム) 参加報告書」

京都大学医学部1年 (井潤 佑紀)

1. 学習成果

今回のプログラムで得られた成果には大きく分けて二つあります。一つ目は、英語力の向上です。三週間という短い間でしたが、日本人同士の間でも、英語で話すように工夫したり、できるだけ耳をすまして周りの英語に耳を傾けるようにすることで英語力を伸ばすことができました。二つ目は、コミュニケーション力の向上です。英語でわからない点があっても、身振り手振りを使って表現することで、英語を使わない場面においても、コミュニケーション力が身に付きました。この他にもたくさん学ぶことのある留学でした。この経験をいかして、日本に帰ってからも努力したいと思いました。

2. 海外での経験

オーストラリアは他民族国家で、様々な背景を持つ人々が暮らしていました。そのため、オーストラリアを訪れただけで、様々な国の文化を知ることができたように思います。特に、博物館に行って、アボリジニの生活や風習のお話を伺ったのはとても興味深かったです。このように様々なバックグラウンドをもつ人々に出会うことができ、新たな発見がたくさんありました。これから、国際化が進む日本において、このような経験ができたことは、視野を広げるために大変重要に思えました。

3. プログラムの内容

プログラムはとても充実していました。多い日には一日に四つの英語の授業があり、様々な方面から英語力を伸ばすことができました。実際に、現地で活躍している日本企業の方からお話を頂戴することができて、大変貴重な経験でした。ここでのお話は、海外でのキャリアを考えるきっかけになりました。また、シドニー大学の学生と交流する機会や、英語で日本文化をプレゼンする機会などもあり、英語学習以外の面でも、大変意義のあるプログラムでした。実際に、現地の学生と交流できたことや、生の講義を実際に聴講することで、国際感覚が身に付いたように思います。ここで学んだ経験を生かして、日本に帰国してからも国際交流に参加したいと思いました。

4. 進路への影響

今回のプログラムで最も進路に影響を与えたのはホームステイでした。ホームマザーは高齢にもかかわらず、精力的に自宅で仕事をし、週末になると礼拝に教会に向かうという生活をしていました。ホームマザーと日々話しているうちに、人生を通して成長していきたいと考えようになりました。このように考えられるようになった機会に恵まれたことに感謝したいと思いました。